

提出書類の記入について

I 全般的事項

- 1 記入に当たっては、なるべくワープロで作成してください。
なお、手書きの場合は、ボールペン等を用い、楷書で丁寧に記入してください。
- 2 外国語はなるべくワープロで作成してください。それによらない場合は必ず活字体で記入してください。

II 履 歴 書

- 1 年齢は、採用予定日現在のものを満年齢で記入してください。写真は、6ヶ月以内に撮影されたものを貼り付けてください。
- 2 現住所は、住民票のとおり正確に記入してください。
- 3 学歴について
 - (1) 高校卒業以上の学歴すべてについて、記入してください。なお、記入に当たっては、卒業証明書又は修了証明書等を確認し、大学学部、学科、課程、専攻、コース並びに大学院の研究科、課程（修士課程、博士課程）、専攻、コース及び学位の種類について、正確に記入してください。
 - (2) 博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合は、「博士課程単位取得退学」と記入してください。
 - (3) 大学を卒業していない場合は、最終学歴について記入してください。
 - (4) 大学の別科及び専攻科については、学歴欄に記入してください。
 - (5) 学生としての外国留学の場合は、学歴欄に記入してください。
- 4 職歴について
 - (1) 職歴のすべて（自営業、主婦等を含む。）について記入し、職名、地位等について記入してください。なお、その職歴始期と終期が明確になるように記入し、現在については必ず「現在に至る」と明記してください。
 - (2) 大学の教員の職歴については、主な担当科目を（ ）で付記してください。（非常勤講師歴については、主なものを記入のこと。）また、大学教員以外の職歴についても、担当予定授業科目に関係のあるものについては、できるだけ具体的に記入してください。
 - (3) 上記(1)、(2)のほか過去に大学設置審議会の教員資格審査において教員の資格があると認められた者は、その審査に係る審査年月、大学名（学部又は研究科名を含む。）、職名、担当授業科目名及びその判定の結果を記入してください。
 - (4) 研究生、副手、聴講生等は、職歴欄に記入してください。
 - (5) 研究者としての外国留学の場合は、職歴欄に記入してください。
- 5 学会及び社会における活動等について
 - (1) 「現在所属している学会」欄には、記入日現在において所属する学会、協会等その名称を正確に記入してください。
 - (2) 大学の教員の場合、所属する大学の委員を除き、審議会等の主たる委員会の委員又は社会における活動等について記入してください。
 - (3) 体育、芸術等の審査員、審判員、指導員等については、本欄に記入してください。
- 6 賞罰について
 - (1) 学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。
- 7 現在の職務の状況について
 - (1) 記入日現在における職務の状況について記入してください。
 - (2) 「職名」欄については、大学等の教員の場合は、「教授」「准教授」等の職位を記入してください。
それ以外の職に従事している場合は、「取締役」「理事」等の職名を記入してください。職名が無い場合は「―」を記入してください。
 - (3) 「勤務状況」欄については、大学等の教員の場合は、担当授業科目を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、職務の内容を簡潔に記入してください。
 - (4) 常勤、非常勤を問わず、定期的に従事する職についてはすべて記入してください。
 - (5) 他大学等の兼任教員の場合は、「勤務先」に大学名、「職名」に兼任、「学部等又は所属部局の名称」に学部学科名（全学共通の場合などは適宜わかるような表記）、「勤務状況」は週あたりの勤務日数を記入してください。

- (6) 大学以外の業務の場合は、従事する職に応じて実態がわかるように適宜記入してください。
- (7) 「名誉職」のような場合で、定期的な勤務のない場合は記入不要です。
- (8) (7)の場合を除き、勤務実態のある業務については記入漏れの無いように注意してください。
- (9) 記載内容は以下の例を参照し、実態が明確になるように記載してください。

○記入例

履 歴 書			
フリガナ	フリガナ		生年月日(年齢) 昭和〇〇年〇月〇日(満〇歳)
氏名	〇田 〇夫		
性別	男	現住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 神奈川県横浜市〇〇区1丁目1番〇〇
電話番号	(自宅) 000-0000-0000		(携帯) 000-0000-0000
メールアドレス	xxx@yyy.jp		
学 歴			
年 月	事 項		
昭和〇年〇月	〇〇高等学校 卒業		
平成〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 入学		
平成〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 卒業 (〇〇学士)		
平成〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻〇〇修士課程 入学		
平成〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻〇〇修士課程 修了 (〇〇修士)		
平成〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻〇〇博士課程 入学		
平成〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻〇〇博士課程 修了 (〇〇博士)		
職 歴			
年 月	事 項		
平成〇年〇月	〇〇大学〇〇学部非常勤講師(担当科目:〇〇)(平成〇年〇月まで)		
平成〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 助手(平成〇年〇月まで)		
平成〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 講師(〇〇〇〇学, 〇〇〇〇概論)(平成〇年〇月まで)		
平成〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 准教授(〇〇概論, 〇〇実習, 〇〇演習) 現在に至る		
学会及び社会における活動等			
現在所属している学会	日本〇〇学会、日本〇〇学会、△△△学会		
年 月	事 項		
平成〇年〇月	日本〇〇学会会員(現在に至る)		
平成〇年〇月	全国〇〇協議会会員(平成〇年〇月まで)		
賞 罰			
年 月	事 項		
平成〇年〇月	日本〇〇学会 ◇◇◇賞 受賞		
現在の職務の状況			
勤務先	職名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
〇〇大学	准教授	〇〇学部〇〇学科	〇〇概論、〇〇実習、〇〇演習

写真貼付欄

「縦4cm」
「横3cm」

Ⅲ 教育研究業績書

- 1 この書類は、教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び主要な著書、学術論文等の業績について作成してください。
- 2 研究分野には、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称(研究分野・細目表)を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入してください。研究内容のキーワードには、同表の細目を参考に、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。なお、分科レベルに該当がない場合は、適宜記入してください。
- 3 教育上の能力に関する事項について
 - (1) 「教育方法の実践例」欄には、大学や短大での授業方法等の工夫など実践例を具体的に記入してください。
 - (2) 「作成した教科書、教材」欄には、大学や短大用の教科書・教材について作成年月及び共著者がいる場合はその氏名等も含めて記入してください。

[例] 大学生のための国語教育 平成16年4月 概要 教育太郎編著他5名
 - (3) 「教育上の能力に関する大学等の評価」欄には、以下の内容を記入してください。
 - ・採用決定の際等における評価内容
 - ・各大学における自己点検・評価での評価結果
 - ・学生による授業評価、教員による相互評価等の結果 など
 - (4) 「実務の経験を有する者についての特記事項」欄には、以下の内容を記入してください。
 - ・大学から受け入れた実習生等に対する指導
 - ・日本薬剤師センター等の職能団体の依頼による研修指導等
 - ・訴訟・審判・監査・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
 - ・大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等 など
 - (5) 「その他」欄には、大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等、国家試験問題の作成等を記入してください。
- 4 職務上の能力に関する事項について
 - (1) 「資格、免許」欄には教員、医師、薬剤師、看護婦等の免許状・資格について記入してください。なお、この記入に当たっては、免許状、証書等を確認し、登録番号等も付記してください。また、外国の資格については原語も併記してください。

[例]
昭和50年3月 中学校教諭1級普通免許状(数学) 昭49中1普第184号(〇〇県教育委員会)
平成10年10月 中学校教諭1種免許状(社会) 平10中1第5219号(〇〇県教育委員会)
 - (2) 「特許等」欄には、特許の対象となった発明の名称、概要、特許番号及び登録年月を記入してください。

[例]
発明の名称 〇〇〇〇(職務上の実績に関する事項に記入)
発明の概要 (概要欄に記入)
特許番号 第〇〇〇〇〇〇〇号(概要欄に記入)
登録年月 平成〇〇年〇〇月(年月欄に記入)
 - (3) 「実務の経験を有する者についての特記事項」欄には、以下の内容を記入してください。
 - ・大学との共同研究
 - ・訴訟・審判・監査・企業提携・研究開発等の担当実績
 - ・各種審議会・行政委員会、各種ADR等の委員
 - ・行政機関における調査官等、研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
 - ・調査研究、留学、海外事情調査等
 - ・上記を裏付ける報告書、手引き書、マニュアル、雑誌等 など
 - (4) 「その他」欄には、職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等、論文の引用実績等を記入してください。
- 5 研究業績等に関する事項について
 - (1) 研究業績は、「著者」、「学術論文」、「その他の著作物」、「翻訳」、「制作」、「作品」、「演奏」、「競技歴」、「主な学会発表」の順序に区分し、年代順に記入してください。

ア 「著書」

1冊の本を単独で執筆した場合だけでなく、2人以上で執筆した場合も、担当執筆ページ数の多少にかかわらず「著書」としてください。その際、担当執筆部分は単著であっても「共著」として扱い、その「表題」欄には、その本の表題を記入し、担当執筆部分の表題は「概要」欄に記入してください。なお、その本がシリーズもの（全集、講座、叢書、双書等）の1冊である場合は、表題の下端に（ ）書きで、シリーズ名及び当該巻数を付記してください。

イ 「学術論文」

論文集、学術雑誌、学会機関誌、研究報告、紀要等に「学術論文」として発表したもののみを記入してください。芸術系教育分野における「作品批評」等の重要なものは、この区分に記入してください。

(注) 学位論文が単行本として刊行されているものであっても、「著書」の区分には入れずに、必ず「学術論文」の区分に入れ、当該論文の題名の下端に、(修士論文)又は(博士論文)と明記してください。また、査読付きの論文については、題名の後に「(査読付)」と記載してください。

ウ 「その他の著作物」

学術論文に該当しない著作物について、職務に関わって重要と思われるものがあれば記入してください。なお、書評、資料紹介、学会情報、学会発表要旨等は含みません。

エ 「翻訳」

学術的に価値のある「翻訳」についてのみを記載してください。なお、その「表題」欄には、まず原著者又は編集者名をカタカナで表記し、次行に邦訳の表題を記入してください。原書名の記入を要する場合は、「概要」欄に記入してください。

オ 「制作・作品・演奏・競技歴等」

芸術分野における制作、展覧会出品、個展、作曲、リサイタル、演奏、指揮等について、技術分野における設計、製作、発明、デザイン等について、体育分野における記録、競技歴等についてそれぞれ記入してください。

カ 「主な学会発表」

国際学会及び全国学会レベルにおける主な口頭発表のみを記入してください。

※近く刊行ないし掲載予定の研究業績については、その旨の証明書を添付してください。(なお、いわゆる投稿予定のものは含みません。)

(3) 「単著、共著の別」欄の記入について

ア 「著書」、 「学術論文」及び「その他の著作物」

「単著」か「共著」のいずれかとします。監修、短編集、共編著等の記載を要する場合は、「概要」欄に記入してください。

イ 「翻訳」

「単独訳」か「共訳」のいずれかとします。

ウ 「学会発表」

「単独」か「共同」のいずれかとします。

(4) 「発行又は発表の年月」欄の記入について

ア 著者、学術論文等(欧文を含む。)の発行又は発表の年月日を次のように記入してください。

[例] 平成15年8月の場合 平成15年8月

イ 学位論文については、大学から学位を授与された年月を記入してください。

(5) 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」欄の記入について

ア 「学術論文(学位論文を除く。)」及び学術雑誌等に発表された「翻訳」の場合は、当該発表雑誌等の誌名のほか、巻・号まで必ず記入してください。

イ 学位論文については、学位を授与された大学名を記入してください。

ウ 「学会発表」の場合は、学会大会名、開催場所等を次のように記入してください。

[例] ○○学会第○○回大会(於○○大学)

(6) 「概要」欄の記入について

研究業績ごとにそれぞれ200字以内で簡潔に概要を記入するとともに、末尾に著者・論文集等の判型及び総ページ数(学術論文等の場合は掲載部分のページ数)を明記してください。なお共著の場合は、本人の氏名を含め共著者全員の氏

名（多数の場合は主要な共著者の氏名），本人の担当部分を記入（本人の担当部分が明確にできないときは，その理由を例えば「共同研究につき本人担当部分抽出不可能」等記入）してください。

○記入例

教育研究業績書		
研究分野	研究内容のキーワード	
○○○○	○○○○○○	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 ○○が参加した○○学と○○体験，○○方法体験	平成○年○月○日～ 平成○年○月○日	○○大学○○部○○学科において○○に実際に授業に参加していただき，状況と実際の起居移動と，その○○方法の体験. 実際に面談し触れ合うことにより，○○像を明確にし○○や○○に有用である。
2 作成した教科書，教材 ○○学（○○出版）	平成○年○月○日発行	代表的な○○と○○を解説。 ○○や○○などの○○領域別の○○，○○での○○の○○実施における特殊技能を解説。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ○○大学 ○○学科 学科長 ○○○夫	平成○年○月○日～ 平成○年○月○日	○○を対象とした○○実践の教育方法を，当該○○を○する種々の方法と日常生活における○○学習および○○，これら相互要素の関連付けの仕方を視野に入れながら開発しており，○の連携を推進する人材育成を目指している本学において，該当教員が○○学等担当としてその教育能力を発揮している。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 公開講座（○○大学）○○について	平成○年○月○日	○○について○○を講演，実技を兼ねる
5 その他 ○○啓発ビデオ作製 ○○協会「○○週間」 一般，学生向け○○紹介ビデオ	平成○年○月○日	○○の仕事内容，将来性，受験内容について，一般の方や大学生，高校生向けに○○を紹介したビデオ。（○○省と協賛）
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許 ○○士免許	昭和○年○月○	登録番号○○○○○号
2 特許等 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 ○○大学紀要委員	平成○年○月○ 日～現在に至る	○○大学紀要の編集・製作担当委員

4 その他 〇〇県〇〇健康フェア 〇〇県〇〇会と共同開催		平成〇年〇月〇日～ 平成〇年〇月〇日	〇〇市〇〇会と共同し〇〇市民に対し〇〇を実施し、 対象者に結果をフィードバックした。市民に対し〇〇 に対する啓発を行った	
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文、翻訳、制作、作品、演奏等の表題	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
著書 1 〇〇プロフェッショナルガイド	共著	平成〇年〇月	〇〇堂 編集 B6版P.1165	〇〇に対する、〇〇現場で役立つマネジメントの全てを掲載。接遇から実際の〇〇について各部分事に著者が解説。 本人担当部分は、〇〇の〇〇を担当し、〇〇の対処法を解説。第〇章、〇節、題名〇〇〇〇、P.12～P.15 [著者名] 〇〇〇〇、〇〇〇〇、他194名
		<p>著書が共著の場合は、 本人担当部分の章、節、題名、掲載ページを「概要」に入れる。</p> <p>著者名は著書に記載された順に記入し、 本人の氏名には下線を付す。</p>		
学術論文 1 〇〇経験、〇〇可動域	単著	平成〇年〇月	〇〇〇〇 第〇巻、〇号 P.〇〇～P.〇〇	〇〇に対する〇〇可動域の変化と〇〇についての検討。〇〇の可動性は、〇〇に何らかの問題がない限り、〇〇程度で〇〇の状態に保てる。〇〇に必要な〇〇の可動性を維持する。〇〇の可動性を維持する。〇〇の可動性を維持する。〇〇の可動性を維持する。
2 〇〇の〇〇法	共著	平成〇年〇月	〇〇と展望16 第〇巻、〇号 P.〇〇～P.〇〇	〇〇の例に対し、自宅での〇〇を指導し、〇〇的に評価し、その〇〇について効果を検討した。1年間〇〇を行い〇〇に合わせて継続的に〇〇を行った結果、〇〇は維持された。このような〇〇に対する適切な〇〇は、〇〇に有用であることが示唆された。 担当部分：〇〇分析と考察、第〇章、〇節、P.〇〇～P.〇〇 [著者名] 〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇
		<p>学術論文の場合、雑誌の名称、巻・号、掲載ページはこちらに入れる。</p> <p>共著の場合、 本人担当部分の章、節、題名、掲載ページは「概要」に入れる。</p>		

主な学会発表	著書、学術論文以外の該当があるものについて記載する			
1〇〇と〇〇の展望	単 独	平成〇年〇月	第〇回〇〇大会 P. 145 東京：〇〇会館	〇〇や〇〇に関する現状を明らかにする。次に〇〇の使用感や使い勝手について、その問題点と実際の使用経験の基づく工夫などを紹介し、実用のための必要事項を浮き彫りにしている。

IV そ の 他

- 1 用紙が不足の場合は、複写してください。
- 2 書類提出後、履歴事項に変更を生じた場合には、速やかに御連絡ください。